

NO.5 4 士族の反乱と自由民権運動

- プリントと一緒に学習してみてください。

士族の不満と士族の商法

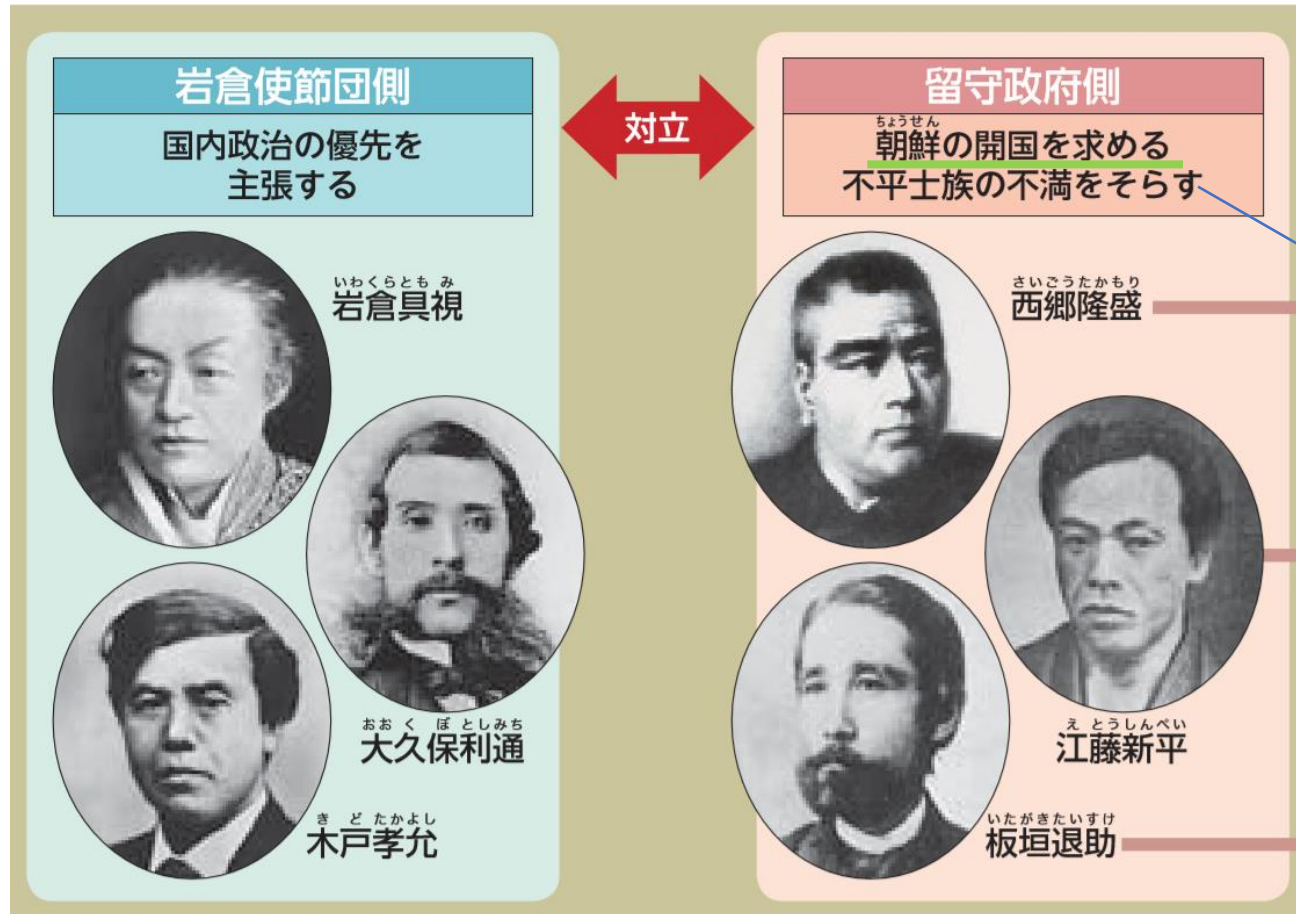


士族（元武士）の戦う仕事を，徴兵令で他の人に奪われ、四民平等でこれまでのように自分たちだけが特別扱いされなくなり、政府から給料をもらえなくなり、商売に手を出すが失敗。

偉そうな態度で商売することを
士族の商法という

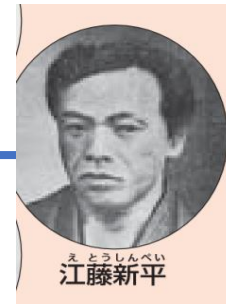
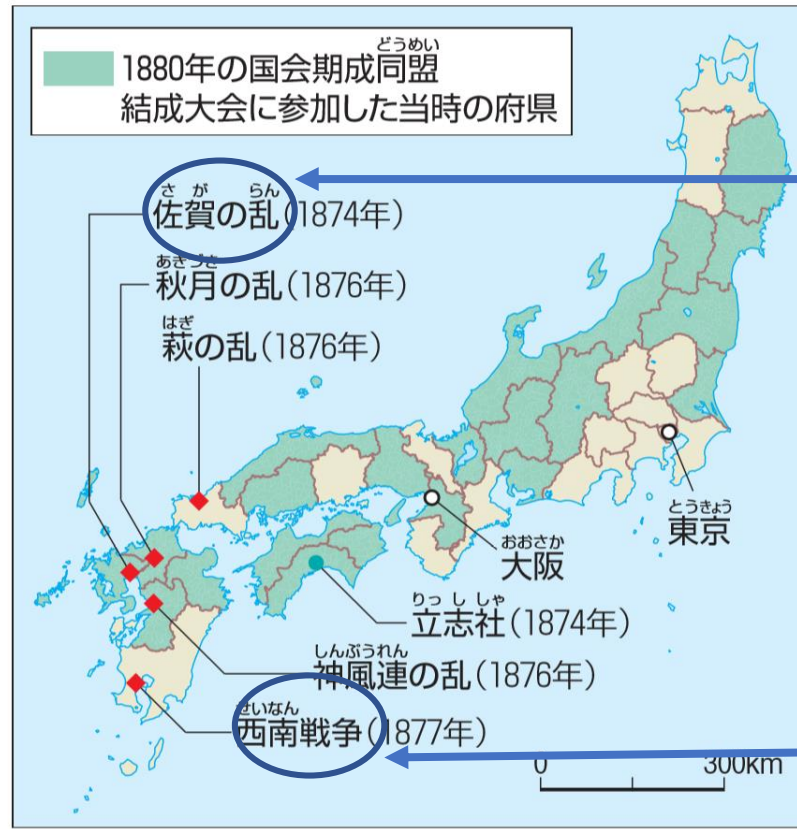
③ 士族の商法（とうきょう東京都 国文学研究資料館蔵）

政府内の対立



征韓論で武力を使ってでも朝鮮との国交を開こうとする考えを持っていた。戦になれば士族（元武士）を活躍させようとしていた。岩倉具視らと対立し政府を去った。

士族の反乱



一部の藩の出身の一部の者だけで行う政治に反発した士族が各地で反乱を起こし、その中でも最大のものが西郷隆盛をリーダーとして起こった
西南戦争だった

西郷隆盛

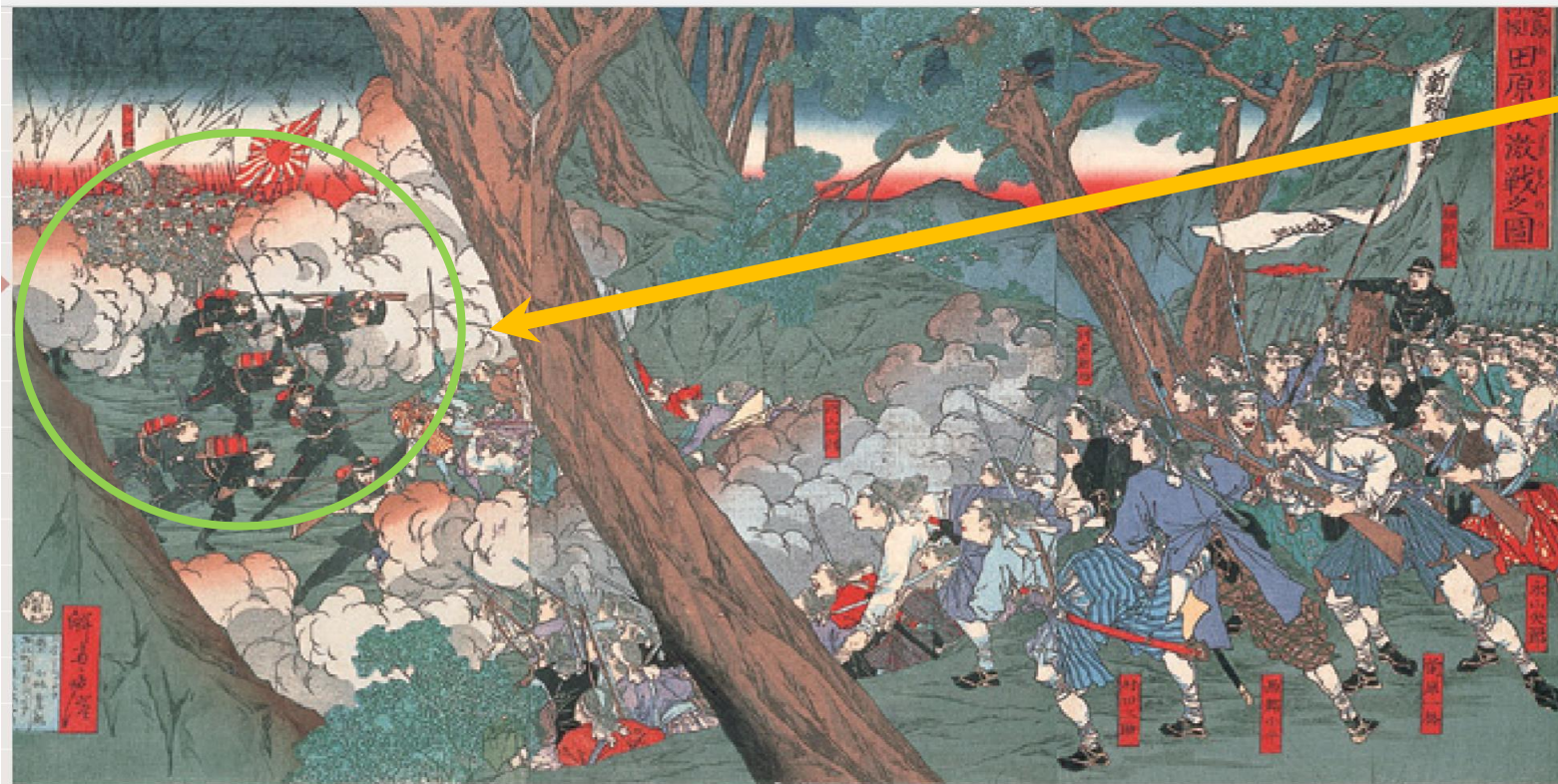
⑤ 士族の反乱と自由民権運動

西南戦争

新政府軍

VS

士族



近代的な兵器，統一した軍服
などから政府軍だとわかる



結果は新政府軍の勝利

近代兵器を備えた新政府軍の
強さが証明された

民撰議院設立建白書

② 民撰議院設立建白書

現在の政權がどこにあるかを考えてみると、天皇にも人民にもない。ただ一部の政府の役人が独占している状況である。…政府が出す命令は多く、その命令もしきりに変わり、政治や刑罰は感情によって行われている。意見を述べる道はふさがれている。…こうしたやり方を変えなければ、おそらく国家は崩壊するだろう。このゆきづまりを救う道は、天下の人民の言論の道をひらくことだけである。それには民撰議院を立てるしかない。

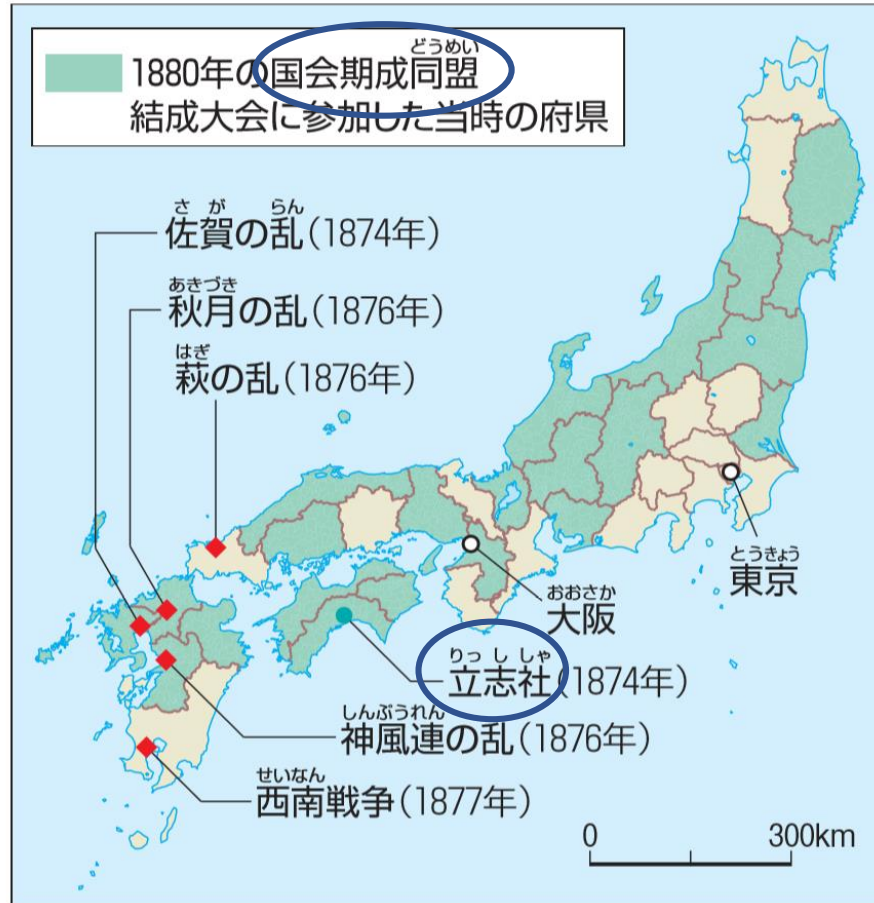
(一部要約)



板垣退助

西郷たちのように武力で政府に反発するのではなく言論で政府に主張。国会をつくって国民の意見を政治に反映するようよびかけ民撰議院設立建白書を政府に提出し、国会を開き、憲法をもとに政治を行う国をめざす自由民権運動を始めた

立志社と国会期成同盟



板垣は**立志社**というグループをつくって自由民権運動を進め、1880年には各地の自由民権運動の代表が大阪に集まり**国会期成同盟**をつくって国会開設を政府にせまり、自由民権運動は盛り上がりました